

平成26年度「みえの現場・すごいやんかトーク」(桑名市)の概要

8月17日(日)に桑名市の子どもアイデア楽工多度西(旧多度西小学校)1階「ドキワクキッズルーム」で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「特定非営利活動法人 子どもアイデア楽工」関係者の皆さん7名の方に集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

【活動紹介】

- 廃校になった小学校を借りて、子どもの能力「2つのソウソウリョク(想像力と創造力)」を高める能動型体験学習を実践している。時間、空間、仲間の「三間」を活用し、子どもの自己肯定感を高めるために、ティーチングではなく、コーチングで進めている。様々な年齢層のスタッフ陣がいることはすごく良い特徴だと思う。
- 1997年を境に、学校での器物損壊など児童のキレる問題行動が急増しており、テレビゲームなどの受動体験が増加し、能動体験が減少していることが起因していると感じた。
- 全国学力テスト1位の秋田県と三重県を比較すると、皮肉にも通塾率は、三重県は上位、秋田県は最下位である。秋田県は早寝早起き率、朝ごはんの摂取率が高く、規則正しい生活習慣がある。三重県はゲームプレイ率、ネット利用率、テレビ視聴率が高く、三重県の子どもは、受動体験に日常的に慣れてしまっている。このようなことが私たちの活動の考え方の背景である。

**Q この活動に参加して、良かったこと、楽しかったこと、嬉しかったことなど自慢話
はありますか？**

- 自分の意見を主張できなかった子が、食育での味付けを通して率先して主張できるようになった時、嬉しかった。そのためには、待ってあげることが必要だと思う。
- このアイデア楽工に出会い、この活動を全国に広げれば、今の子ども達が変わるのではないかと思った。
- 4ヶ月経って、子供たちの目の輝きが変わってきたことが嬉しい。例えば、色塗りで塗る色を聞いてくるので、好きな色を塗っていいと伝えと、自分を出せるんだと、目が輝く。
- ここでの活動は、子ども達が自分の成長を実感できるし、家に帰ってからもしようかとソウゾウリョクを持続させることができる。やる気にさせるスイッチを探すため、問いかけを工夫している。
- 子ども達が、どういう経験をすれば、自然界の法則などを教えなくても感じるようになるか、サイエンス的に成長させるということに取り組んでいる。難題ではあるが、子ども達の目の輝きに触れる機会を得たことが、幸せである。
- 一番の自慢は仲間を得たこと。素敵なスタッフに出会った。また区長をはじめ地域の強力なバックアップに感動している。
- 子どもが1日アイデア楽工に行くと、ヘロヘロになり、ゲームもせずに寝てしまう、ゲームではないもっと楽しいことを得ていると、あるお母さんから素敵な言葉をいただいた。
- 小学校が廃校になり寂しかったが、アイデア楽工が来ていただき、子ども達の声を聞くと気持ちが暖かくなる。自治会としてできることは協力していく。徐々に、この地域に新しい方々が溶け込んでくれるのが有難い。
- 運動場の樹木の伐採、川の整備など、地域の方が率先して行ってくれる。自然で遊ぶ時の子ども達の目の輝きはとびっきりいい。これも、見えないところでの地域の人の支えがあってのことと実感している。

Q この活動をより良くするためにこんな課題があるとか、子育て、教育でこういう課題があるとか、そして未来に向けてどう克服するかなどありませんか？

- 小学校の理科支援員をした時、教員が忙しく、教科書もどんどん難しくなるなかで、教員の方が理科の楽しみや感動を与える授業ができているのかと不安を覚えた。また、小学校の理科の実験道具を増やしてほしい。
- 食は全ての学科に通じるもの。「弁当の日」のPRなど、県としても「食育」をもっと進めてほしい。
- アイデア楽工に来る子どもを増やしたい。平日の夜に来てほしい。お父さん、お母さんが今、子どもたちに何が大事かということを考えてほしい。
- 「先回り育児」をもう一度考え直す時期に来ている。塾、習い事もいいが、何のためにさせるのかを親がしっかり考えないといけない。子どもの将来は無限大なのに、親が子どもの可能性をスポイルしている場面があり、そのため親育というの始めた。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事から次のような発言がありました。

- 自己肯定感を高めることは、平成23年4月から施行した三重県子ども条例の前文の最も大事な言葉であり、考え方が合致していて嬉しい。
- アイデア楽工さんの分析のように、全国学力・学習状況調査は、単にテストの点数だけを問うものでなく、分析のために活用することが大事である。
- 知事として特別支援学校に何度も訪問させてもらったこと、経済産業省に勤務していた時にフリースクールでボランティアをしていた経験から、子どもの力を信じて待つことの重要性は非常に感じる。
- 三重県版子ども白書では、自分が大切にされていると思う子ほど、自分の地域に住み続けたいという率が高い傾向があり、人口減少問題のなか、皆で声を掛け、大切にすることが、地域に子どもが定着するきっかけになるのではないかなと思う。
- 学校ではできない部分を、アイデア楽工さんが補っていただいている、だからこそ、ここが大事な存在なのだと思う。
- 先日、魚食普及のための男の料理教室に参加した。学校単位での食育も大切であるが、市町との役割分担としては、県は食育できる人材の育成を進めていく。
- 親育はいいと思う。育児でネット情報に振り回されるので、ここに来て「そうではないんだ～」と感じていただけるといい。
- 国の調査によれば、子どもの時に川遊びや夜空をたくさん見たなど体験活動一杯した子ほど、最後まで何とかやり遂げたい、もっと学びたいと答える率が高いという結果がある。皆さんの活動により、子ども達の能動体験が増え、最後までやり遂げるなどを通じて、子ども達の笑顔がもっと増えるものと改めて感じた。



【「特定非営利活動法人 子どもアイデア楽工」関係者の皆さんとは】

「特定非営利活動法人 子どもアイデア楽工」は、小学校、学習塾ではできない新しい教育方法「能動体験型学習プログラム＝気づき教育」を実践し、子どもたちを健全な成長に導くために、平成25年に設立された法人で、平成26年3月に日多度西小学校にて「子どもアイデア楽工」を開校し、地元自治会など地域とともに活動を展開されています。